

万博契機に日本の自然考える 梅田でシンポ

2025年大阪・関西万博を契機に日本の自然をシンポケースとして考えるシンポジウムが18日、大阪市北区の梅田スカイビルで開催された。大阪観光局が事務局を務める日本みどりのプロジェクト推進協議会が主催した。

開催地を代表して、吉村洋文府知事は「まちづくりで重要な視点の一つが緑。万博で緑や木材の大切さを感じてもらえれば」とあいさつ。同協議会の特別協力会員で、緑が豊かな庭園を備えたマンションを展開するリバー産業の河啓一社長は「大阪が緑でいっぱい



なれば、安らぎや夢を追う力が生まれ、豊かになると確信している。自然の緑を増やしていきたい」と述べた。写真。

林野庁の青山豊久長官が基調講演。パネルディスカッションでは大阪観光局の溝畑宏理事長らがコーディネーターを務め、国際競争力を高める視点から日本の緑の将来像や日本の森を再生する道筋について意見を交換。都市と地方の連携についても議論を深めた。